

◆協働の現状・課題(全体の意見)

課題	項目	項目名	現状等
厳しい現状への理解が必要	第1章-1	協働のまちづくりが必要になった背景	制度崩壊 意識づけが必要 声を上げられない人もいる 災害は、意識が生まれるきっかけとなることもある
協働という言葉がよくわからない	第1章-2	協働のまちづくりとは	どんな活動が協働？公民館、PTA、町会・・・ 協働という言葉に馴染みなし よくわからん。何が協働？どこらへんが？ 線引き？がよくわからない 協働とは何か説明を聞いてもわからない 出来るだけ、役割分担を分ける(片寄らない) お互いに目的を共有
協働の理解不足(市民)	第1章-2	協働のまちづくりとは	協働に適した事業がわからない⇒事業仕分け 相手の情報がわからない 対等な立場でない つつい行政に頼ってくる つついお願いする
協働の理解不足(行政)	第1章-2	協働のまちづくりとは	行政が求める成果が重い 行政からやらされる 行政側も意識が薄い 行政がやってしまう 上司の理解がない コラボの意味が理解されない 協働の理解がまだまだ不足している
在所・組織をつなぐべき	第2章-1	わたしたちがめざす理想のまちの姿	在所の助け合い、活動はある コミュニティ間のみぞ？
誰と組むのかわからない	第2章-3	それぞれの主体に求められる姿勢(と連携)	他団体との協働が難しい 相手探しがわからない 協働しようにも相手が見つけれられない 個人で何が出来るか(団体に属していない人)
行政との関わり方	第2章-3	それぞれの主体に求められる姿勢(と連携)	行政との関わり方？
人材育成(遅)	第3章-1	協働意識を醸成するために	人材育成 学習するための講師の派遣
人財が見えない(人材不足)			そもそも地域づくり活動をする人が少ない 若い人間の人口が少ない(地域に根ざす人) 地域の人財力がわからない
負の連鎖	第3章-1	協働意識を醸成するために	理解不足 目的が不明確 達成感がない やらされ感 マンネリ化してくる 担い手が少ない(若手) 協働への理解がない
マンネリズム 余裕が無く疲れている	第3章-1	協働意識を醸成するために	協働したら丸投げされる気がする そもそも手いっぱい新しいことに取り組む気力無し 協働以前に他に力を借りようと思っていない 外の目や意見を聞く耳が団体としてない
同じ人が参加、拡がらない、参加者不足	第3章-1	協働意識を醸成するために	グループ内から外に出ない いつも同じ人達だけ、増えてこない スタッフの参加が少ない時があり、一人ひとりの負担が大きくなる 参加者が少ない 人数の確保 参加者の不足 若者の参画が少ない 市民への参加呼びかけがうまくいかないことがある
予算的な支援	第3章-2	協働のまちづくり推進体制の整備	協働を推進するための思い切った予算措置なし 次につながる予算的な支援 行政の予算がつかない仕事は認識されない
協働コーディネーターを支える仕組みがない	第3章-2	協働のまちづくり推進体制の整備	物好き(コーディネーター)に人々がついてくる？ 協働コーディネーターが少ない 協働をコーディネートすることで飯を食える人がいない、ビジネスモデル?! 協働コーディネーターの育成、そのための予算